

原子力総合シンポジウム 2015 プログラム

主催 日本学術会議総合工学委員会

共催 関連 40 学協会

日 時 2015 年 7 月 16 日 (木) 10:00-17:00

会 場 日本学術会議講堂 (東京都港区六本木 7-22-34)

【主調テーマ】「原子力の将来の在り方」

【趣旨】 東電福島第一原子力発電所の事故により、発電所周辺地域の広範な放射能汚染が引き起こされ、今なお、多くの方々の避難を余儀なくされる事態が続いている。また、事故炉の廃止措置に向けての作業は、かつて経験のない困難な課題の中、進められているが、今後長期に亘る継続的な努力を必要としている。このような中、日本学術会議総合工学委員会は、原子力のみならず他の技術分野の工学施設におけるリスクに着目し、「工学システムに対する社会の安全目標」を取りまとめた。この検討結果を踏まえ、今後、先端技術を用いた巨大複雑システムの利用が社会に受け入れられるための安全の考え方について考察する。また、原子力技術に焦点を当て、その利用が社会にもたらす可能性についても、日本学術会議提言「研究用原子炉のあり方について」を踏まえ原子力技術の可能性とそれを支える研究施設の在り方、更には放射線利用のビジョンを紹介し、原子力技術の利用が社会にもたらすものとそれに伴うリスクとの関係、人材育成について議論する。人材育成については、今回広範な視点の中で、原子力基礎に立脚した人材育成にスポットを当てる。

【プログラム】(演題、講師等は変更となる場合があります) 敬称略

開会の辞 渡辺美代子 日本学術会議総合工学委員会委員長 10:00-10:10

挨拶 大西 隆 日本学術会議会長 10:10-10:20

(第 1 部) 講演Ⅰ—総合工学と原子力安全—

1. 「工学システムのリスクと安全目標の考え方」 松岡 猛 (宇都宮大学) 10:20-10:55
2. 「化学プラントの安全目標と安全確保の考え方」 中村昌允 (東京工業大学) 10:55-11:30
3. 「原子力安全とレジリエンス工学」 関村直人 (東京大学) 11:30-12:05

(第 2 部) 講演Ⅱ—原子力基礎科学—

1. 「原子力学の将来検討」 家 泰弘 (東京大学物性研究所) 13:00-13:35
2. 「理工医農学を支える研究用原子炉のあり方」
柴田徳思 (日本アイソトープ協会) 13:35-14:10
3. 「核科学工学の新展開と人材育成」 藤田玲子 (科学技術振興機構) 14:10-14:45

(第 3 部) パネル討論 「原子力の人材育成/教育」 15:00-16:50

ファシリテーター: 上坂 充 (東京大学)

パネリスト: 中西友子 (原子力委員会、東大、日本放射化学会)、
川端祐司 (京都大学)、伊藤哲夫 (近畿大学)、
浜崎学 (日本原子力学会教育委員会) 他

閉会の辞 日本原子力学会会長 16:50-17:00

参加費 無料 (資料希望者には税込 1,000 円にて頒布予定)